

仲田 吉一 なかだ よしかず (八重山漁協)

1963年(昭和38年)八重山石垣市新川に生まれる。52歳(2015年時)

祖父の代に沖縄本島伊是名島から石垣島に移住、祖父は尖閣開拓者古賀氏のもとでカツオ漁に従事。親子3代尖閣の海で飯を食ってきたという。海自機関科で船舶エンジンを学び、23歳帰郷後に父親と先島近海の深海一本釣に従事、28歳でマグロ延縄に転換、第八宏徳丸(4.9ト)を建造。

以来、先島北海区(八重山・尖閣間)を主漁場として23年間マグロ延縄を専業。今なお第一線で活躍、若手漁業者のリーダーとして八重山マグロ延縄業界を牽引し、八重山マグロ船主会長、日台漁業八重山地区審議委員、等々歴任する。



祖父 伊是名から渡島 ずっと古賀丸乗っていた

僕は祖父さん(仲田森助)の代に、沖縄本島の伊是名から八重山に来た。あの時分は伊是名で働く場所ないから、潜りをやっていたけど、潜りだけでは飯食えないからこっちに来たと言っていた。歴史の本に、「八重山でも鰹業を習得した漁師が中心になって、各部落株組織で、発動機船を建造して競って鰹業を始めた。・・字前泊で根路銘五郎氏外14名の同士が八重山尖閣列島での経験を活用し、大正

11年に新造船で鰹業に専念し好成績を上げた」(「伊平屋列島文化誌」仲田清利著)とあるよ。この根路銘五郎さんという人は分らんが、祖父さんも多分この人達と一緒に来たんじゃないか、来た時期は大正の時期かなあ。外14名の同士とあるから、相当人達が、尖閣列島の古賀さんの所に来たかもしれん。

祖父さんは、ずっとクガドゥン(古賀殿、古賀商店八重山支店、社長古賀善次)の所におって、ずっと古賀丸に乗っている。尖閣でカツオ釣っていたわけ。親父(仲田吉宏)の話だと、親父が小さい頃に、お土産とって、バカドリ(カツオドリ)を、2,3羽持ってきていたと言いつた(笑い)。あれ臭くて食べられなかったはずだが、食べたのかなあ。祖父さんは、戦前に古賀丸が辞めるまで、ずっと古賀丸に乗っていたそうです。戦前辞めて、戦後になってからが、マルノーのカツオ船(船主丸野友助)に、あの友福丸は1号2号3号5号と4隻あったけど、あの船に乗ったわけよ。



魚釣島でのカツオ節製造光景。島の周りでカツオ釣ると、島に水揚げしてカツオ節製造した。(明治43年)

親子3代 尖閣で 飯を食う

(石垣市新川の地図を指して) 尖閣ではいつまでカツオ製造したか分らんけど、古賀丸のカツオ工場はこっちにもあったんです。私の実家(仲田鮮魚店)の後ろに納屋あった。

親父の話だと戦前はこっちに大きな工場があって、水揚げはすぐ目の前にしておった。今ここは埋め立てられているが、戦前はこっちは海なっている。こっちに古賀丸着けて、船揚げられるように坂になって、船揚場みたいだったそうですよ。古賀丸は何隻？ 親父が言うには1隻しかなく、大きさは10トまではなかったみたい。古賀の工場は相当大きかったようです。製造作業場の納屋とか、焙乾屋とかあって、大きな水タンクもあって、長崎御願(拝所)の近くまで、もう全部古賀さんの屋敷だったと言ってました。工場は金城良正さんの親父(良興)に任せておったから、古賀(善次)さんという人は見たことなく、ずっと那覇におったみたいと言ってました。戦前で、古賀さんはカツオ業を辞めたけど、戦後まで船はあったから、アオヤマ(青山政元)さんが、工場も船も借りてやっておったそうです。アオヤマが辞めたら、古賀さんの土地は皆売ってますよ。南海商会(社長照屋清栄)もあそこでやっておったです。僕も憶えてますが、あっちも全部売られて、古賀さんの土地はもうないですよ。



石垣港棧橋から古賀商店付近を望む(昭和8年)。
(「八重山写真帖」より)

親父(仲田吉宏)は古賀丸にも乗ったそうです。小学校2年の夏休みに、連れられて、古賀丸に乗って、カツオを釣るのを見せてもらったと話してました(笑い)。

親父の仕事ですか、こっちではカツオ業が盛んでしたから、祖父さんの跡継いでカツオ業ですよ。カツオ船に乗ったり、潜ってカツオのエサ採りしたりしてます。あと一本釣、曳き縄したり、何でもやっています。戦後カツオ船が盛んな頃は、島の船は、もう皆尖閣の辺りまで出漁しましたからねえ。私の家も三世代、この尖閣の海で飯を食ってきたわけですよ。私達は先祖が開拓してきたこの海を守り、育てていかなければいけないですよええ。



祖父・仲田森助 父・仲田吉宏

28歳 一本釣から マグロに切り替え

僕は、昭和38年に、海上自衛隊に3年、1年期3年だから、そこに入って、機関科でエンジンを学びました。そのあと帰って来てずっと、親父と一緒に漁師してました。深海一本釣をして、3ト位の小型船で、アカマチ(ハマダイ)とか釣ってました。漁場は、西表から与那国の広範囲、多良間辺りと全部、船が小さいから尖閣は行かなかったです。

一本釣を暫くやっていて、マグロ延縄に切り替えました。28歳に、平成3年だから1991年に第八宏徳丸(4.9ト)を進水し、これで本格的にマグロをやり始めました。

切り替えた動機ですか、親父が一本釣やっていた頃は、GPSないから、自分の釣れるポイントは、皆山当て、島当てで行って、憶えていたわけです。親父のポイントは、一本釣りが長かったから相当ありましたよ。これを僕がGPSに1年間で全部入れたたんです。登録したんです（笑い）。これに親父もびっくりしてねえ。もう簡単に自分のポイントが他所に分かってしまうでしょう。結局ここで船停めて漁していたら、傍通って行く船はポンと押すだけで、もうその場所は皆にばれるわけ。4,5日後に、このポイントを押した船がここに来て、一本釣は底魚でしょう。そこで漁ができますから（笑い）。

もう一本釣は将来性がないということで、それで回遊魚のマグロ、マグロ船に切り替えたわけです。

それにマグロ船に比べたら一本釣は限界がありますねえ。一本釣りはどんなに200和釣っても、キハダマグロ1本でも50和でしょう、5本釣ればもう250和です。また大きければ2倍の500和にもなる。それだけに、マグロ船は魅力ありました。その代わり、マグロ船造るとか、延縄の漁具とか、経費とか、相当金は掛かったし、リスクも伴ったけど、これはやっぱり親子だからできたんです。僕もあの時は若かったし、借金は頑張って返せばいいやの軽い気持ちでやりましたから（笑い）。まあ切り替えの時期もよかったし、やっぱり、やってよかったですねえ。

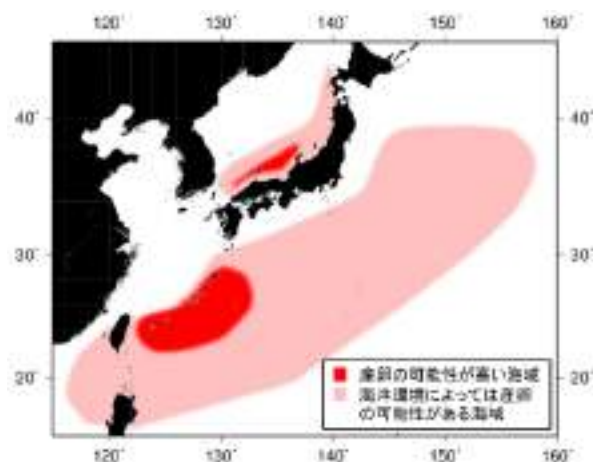


マグロ延縄船・第八宏徳丸(4.9ト)

八重山海域 マグロ好漁場 最終産卵場？

この八重山海域はマグロのいい漁場ですよ。クロマグロは、フィリピンの南の方から北上してきて、東シナ海をぐるっと回ってきて、産卵終わったら、南に帰って行きます。

最近そうなのではということが分かってきましたねえ。これは6年間、僕ら漁業者が西海区水産研究所に協力して、国が調査研究やって、GPSたぐって、船が来て、全部マグロ追って行って、それで分かったんですが。自分なんかは、データから見たら、最終産卵場は南西諸島で、石垣島辺りでやって、それからまた南に帰って行くと推測しています。で、産卵終わったら南へ帰るんだけど、終わらない魚がまた尖閣辺りからぐるっと廻ってくるのもあるし、



クロマグロの産卵概念図。尖閣諸島を含む隻島海域が産卵の可能性が高い。（「水産総合研究センター資料」より）

一気に産卵はしないで、徐々に徐々にやりますから、産卵しながらねえ。ですから、八重山海域は、もうマグロのいい漁場になっているわけです。クロマグロは、この南の方廻りのグループと北海道からの北廻りのグループ、この2種類あるそうです。北周りのグループは宮崎の方で研究して、与論辺りから引き返して行くとか言ってましたけど、まだその辺ははっきりしてないそうです。途中で研究はストップしたもんだから、この研究していた水産学者が病気で亡くなって、研究が打ち切られたんです。やる人がいなくなって、勿体なかったですよ。

この話を麻生太郎前総理が那覇に丁度来ている時に、僕が話したんです。親睦会があったもんだから、クロマグロのそういう重要な研究をしていたけど、研究者が亡くなって、跡継ぎがいなくて、もう途中で消滅しました。勿体ないです、もし何か機会を見て、ぜひ復活させてほしいと言ったら、うんうんと聞いてはいたけどねえ(笑い)。

10年前 年間水揚げ5、6千万 今3千万切る

第八宏徳丸(4.9ト)の水揚げですか、近年は苦しくなっているんです。魚もいなくなって。最初の頃はよかったです、年間7千万円位水揚げしていました。10年位前までは、普通は5千から6千万位ですねえ。だが、今はその半分、3千万切っています。種類はキハダが多いですねえ、キハダは1年通した魚だから、メバチとホンマグロは時期があります。



八重山漁協所属のマグロ船。5~10ト級が主。クロマグロは5月~6月頃が漁期。準備整えて出漁を待っている。

クロマグロは5月と6月の約2ヶ月、月に3航海はします。漁場が近いもんだから、釣れたら2、3日で帰ります。その時はピストン航海で、4航海、5航海もします。

僕ら仲間(八重山漁協所属)の船は、大体が10ト以下です。人数は平均3名で、でも船員がいなくて、結構1人2人が多くて、小さい船だと1人で仕事してます(笑い)。八重山全体で、マグロ船やってるのは15,6隻位だけど、もうマグロ時期になると、漁場には船は相当集まりますねえ。あっちこっから、もう200隻から300隻は来ます。

那覇地区からも来ますし、宮崎からも全部来て、もう波照間沖から、宮古の所まで、ずらっと船は並びます。

投縄 尖閣向きに、北緯25° 東経124° から

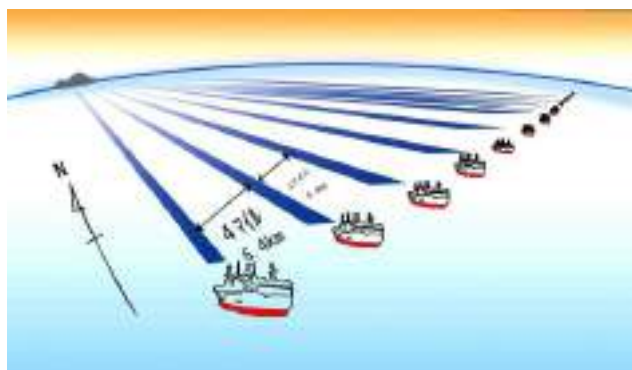
(海図を指して、後方225頁に掲示) 漁場の場所ですか、八重山近くだと、北と南に2つあります。こっちの北の漁場はいいですよ。尖閣列島ですか、この近くではやりません。

尖閣列島付近は大陸棚の浅い海域だから、マグロ延縄はできません、マグロも通らないから。マグロ延縄は 500~1000m の深さの海域でしかできません。ですから、八重山と尖閣列島の合い中、こっち(②：先島北西漁場)です。あとは南のこっち(③：宮古・八重山南漁場)があります。僕ら八重山のマグロ船は、投縄は大体この2つでやっています。北(②)が主に中心ですねえ。

北を例にして投縄するならば、入れ始めは、大体が北緯 25 度、東経 124 度の地点です。投縄方向も、その時の潮の流れや風など見て、皆で決めますが、大体が 330 度北北西、尖閣向きにして縄入れますねえ。で、漁場に来て、入れ始めポイントを決めたら、船は到着順に、3,4マイル等間隔で、こっちに、ずらっと並んでいきます。

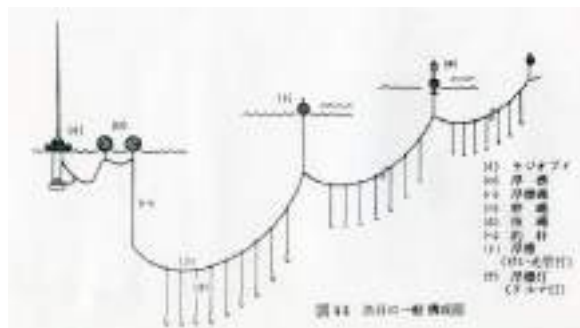
して、各船とも自分の投縄開始のポイントを北緯何度東経何度、角度何度、コースの距離、投縄終了の地点を今は GPS で計算して、全部報告しています。

投縄開始ですか？ 朝の 6 時です。6 時になると、船は決めたコースに、一斉に縄を入れていきます。今は全部自動で縄を入れて自動操舵で走っていきますから。船同士では交差するとかのトラブルは、殆ど起こりません。他の船が時間的に遅れたら、縄が潮に流されて、他の縄に絡まってしまいますけど。こっちは黒潮だから、黒潮は北東に流れていくものだから、北側の船を先に入れて、段々後の船はそれ以降入れていっても大丈夫です。逆だと縄が絡んでもつれる恐れがあります。



北緯 25 度、東経 124 度の地点から全船 4 マイル等間隔で並び北北西方向に、尖閣諸島の方角に向けて一斉に投縄する。

結局、日本のマグロ延縄の場合は、北は北海道から南は八重山まで、マグロ船の周波数というものが無線にあって、マグロ延縄する時は全船そこに切り替えて、いわば八重山の波照間沖から鹿児島沖あたりまで、ズラーと船が、4 マイル、3 マイル等間隔で並んでいるわけです。だから自分のポイントを皆に報告しておかないと、縄の交差に関わるものだから、嘘とか付いたら大変なことになってしまう、皆に迷惑がかかる。日本船の場合はちゃんと秩序が保たれているわけです。



マグロ延縄は釣針 1200 本ほどで、長さが 4,50 呎に及ぶため、縄が交差して纏れたりしたら大ごとである。



宏徳丸の投縄光景 1 左：船尾から2人で、左人後方見えるのが投縄機。船をゆっくり航行しながら投縄。右：上から見た縄置台とエサ置台。投縄は1200本の釣針にエサのムロアジ掛け、枝縄、幹縄入れの作業。

台湾船 海外から締め出され？ 南西諸島に押しかける

台湾船自体が僕等に言わせれば、操業秩序がない、投縄時間もバラバラ、縄のコースも東西に入れたり、南北に入れたり、操業の仕方自体がもうバラバラですねえ。彼等と同じ海域にいと、もう漁具が交差をして切れますから。南北と東西、縄が十字に交差する場合は、一度縄を外してかわせば、一回で済むんですが、並行に交差するともう大変です。10時間で終わる漁なのに、絡まったら外すのに、余計に5時間6時間かかってしまいます。だから、台湾船は嫌がられています。そういったトラブルが多発するから、シーズンは避けるようになっていきます。

当然その時期は水産庁の漁業取締船が集中して取り締まってくれるのですが、南の海域を追っ払うと北に来るし、北を追っ払うと、今度は南に来るわけです。結局、漁場として広い南を集中して取締まって、今度は北が手薄になってしまう（笑い）。

平成3年(1991)位までは、台湾船には、日本語が分かる年配の方が乗っていました。同じ延縄船ですから、どこに縄を入れるか相談ができて、きれいに並行して投縄できましたけど。その時分は台湾漁船もそんなに多くないから、被害も少なかったし、漁場でお互い相談しながらどうにか漁ができましたよ。

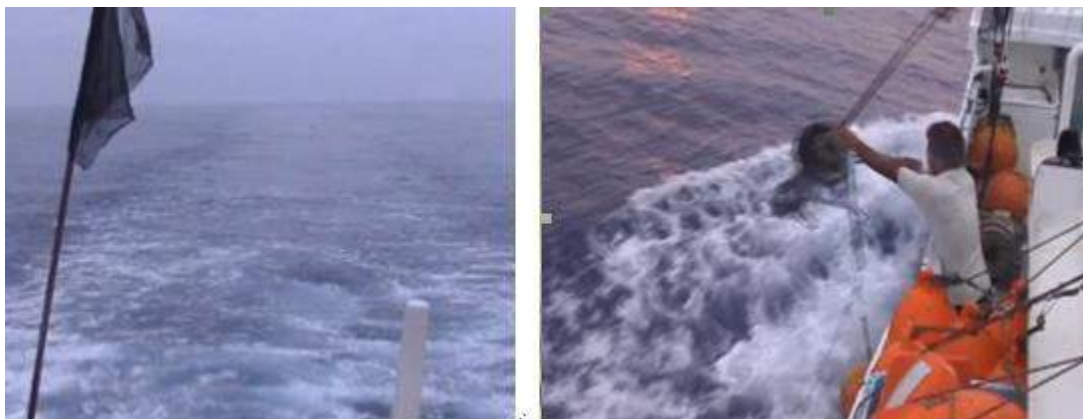
近年はそれがひどくなって、平成15、16年(2003、4年)頃が一番ひどい時期だったかなあ、データはどこかに取ってあると思うので、それ見たら、分かります。台湾船に今でも相当な数います。僕らが水産庁に取締をお願いする以前はもっといました。あまりに多すぎて石垣島辺り(A海区とF海区)からは投縄できなくて、もう僕らの方が遠慮して



台湾船が切って捨てた縄。ペラに巻いたら事故になる。日本側が回収する。

(笑い)、宮古島の端の方(E海区)まで行って、そこから操業した時期もあります。

なぜ急にこれほど増えたかって？ 色々な噂を聞きます。台湾船は悪さをすることが多いそうです。これは事実かどうか分かりませんが、フィリピンやパラオで入漁許可証を取ると、その許可証を何隻もの船で使い回すとか、また漁具を盗んだりだとか、して向こうの、外国の警備艇に機関銃で撃たれたりしたらしいです。そういった理由で南方漁場から締め出されたと聞きましたけど。



投縄光景 2 左：延縄は全長 50 ㌦に及び、数 100 メーター間隔で目印の浮球、ダルマ灯、ラジオブイ等を海中に投じる。右：左舷上方にある大きな球が浮標。投じているのは延縄の位置知らせるラジオブイ。

秩序なし 一方的に縄切ったり トラブル続出

台湾船は見て直ぐわかります。ああ、あれは台湾船だなあって。それに蘇澳とか宜ランの船と、高雄の船はまるで、投縄の仕方が違う、バラバラなんですねえ。この蘇澳の船は東西だけど、裏の高雄と宜ランの船は北から南に入れていたそうです。本格的にマグロが獲れるようになったから、蘇澳の連中なんか中心になって、それではいかんということで、一斉に東西に方向決めたらしいです。方向決めても、お互いに連絡していない状態だから、台湾のマグロ船同士は、バラバラで縄を交差していますよ (笑い)。

台湾船同士でさえそうですから、台湾船はルールは守りません。あんた達は、沖縄海域、東シナ海で操業する時は、日本側のルール守りなさいって、これも重々話しましたよ。

台湾船にルール守らせることなんか、とても無理な話です。また縄が交差していても、連絡も取れません、連絡取ったとしても、今度は言葉が通じませんから(笑い)。

それに一番厄介なことは台湾船と縄が交差したら、こっちの縄を勝手に、一方的に切っていくわけです。切ったなら、結べばいいけど、それもしないでいくから大変です。

また切られたら、もうこの縄探して引き揚げするのに一晩かかることもありますから。

たまたま、両方が鉢合わせなって縄が交差したことがあって、急いで縄外さんといかん、ピーンと張った縄が切れると破片が飛んでくるから危険。「縄緩めろ、おい、危ないから、

縄緩めろ！！」と幾ら叫んでも、素知らぬ顔、聞く耳なんか持たない。もう僕なんか頭にきて、しまいにはモリを持って構えてましたねえ（笑い）。

そういったトラブルで、ほんとに海では何が起きるか分からない。魚を獲るにも喧嘩みたいになって怖いです。

一番心配なのは、水産庁の取締船が台湾船を取り締まっている時です。違法操業だから、夜に電気を付けずに投縄しているわけです。レーダーには映るけど、肉眼では全く見えない。いつぶつかってもおかしくない、大変危険です。また、私の船がホンマグロを釣って船に上げようとしている、もしそれを台湾船に見られたとしますねえ。そうしたらもう終わりです。すぐ無線連絡で僚船を集めて、こっちでダーッと投縄して滅茶苦茶にしまいます（笑い）。もうこんなですから、台湾船とのトラブルは数え上げたら限りがないです。どれ1つとっても早く手を打たないと取り返しが付かなくなりますよ。

隻数 規模が違う 12隻対300~400隻 10ト対19ト

よく、お互い話し合っ、仲よくやれば、お互いの生活の場ではないかと、したり顔で言う人がいますが、分かっていたきたいのは、一緒に仲良く操業と言う形は、先ず無理なんです。早く手を打たないと、僕らが操業できなくなるんです。まず船の数が全然、ケタが違います。八重山漁協のマグロ船、石垣島のマグロ船は16隻です。向こうはこっちの20倍も、300隻、400隻はいますねえ。船の大きさも違います。こちらは全て10ト未満、向こうはこっちの2倍の19ト級、高雄の船は100ト位はあるんじゃないか。

高雄は会社組織です。会社が船を所有していて、船長や船員を雇う。蘇澳の船は個人の船です。蘇澳は青く塗られている。高雄は白が大きく塗られている、同じ台湾の船でも見た目もぜんぜん違う。高雄の船はお雇い船長だから、競争心がある。マグロも相当漁獲しないと、首になるから（笑い）、その分必死ですねえ。マグロの時期になると、この台湾船が300隻400隻も、こっちに、ダーッと押しかけて来るわけです。

台湾 暫定線 勝手に引いて 北の海占領？

この数10年前から、台湾船が多くなって、もうホンマグロの時期だとひどいです。

4月から6月頃は、八重山と尖閣の合い中、北側の海(2海区)は、もう台湾船でいっぱいです。あつちは台湾船に占領されているようなもんです。台湾の暫定(執法)線を知ってますねえ。台湾が勝手に引いた線です。あれはおかしいです。なんでこんなわけの分からない引き方をされなきゃならないのか。勝手に線引いて、こっちまでは台湾の海だと言ってます（笑い）。



台湾の暫定執法線（蘇澳漁業会）。
（「台湾関連ウェブサイト」より）

何年前かなえ、水産庁の漁業取締船が暫定線辺りを取り締まっていたら、逆に台湾の漁船に、水産庁の取締船が囲まれて大変だったそうです。水産庁の取締船も強くは取り締まれないです。またウチらの仲間の船がこの近くで投縄していたら、台湾のコーストガード(公船)が近付いて来て、ここは台湾の何々だから出ていきなさいと、そう言われたそうです(笑い)。全く情けない話ですねえ。これも日本側がずっと弱腰姿勢とってきたからだと思います。

結局、台湾は、八重山と尖閣の間の海、北側の海(2海区)の台湾寄りに、こっちは自分達の海だからと、勝手に線引いて、日本側が強くないもんだから、あっちは占領された同然です。もう台湾船がいっぱい押しかけていますから。

あそこは、ほんとにクロマグロのいい漁場です。昔はそこで操業していましたが、今は自分達はもう行かないです。行ったら、台湾船とトラブルが起こるから避けています。

ほんとは行きたいんだけど、行けないわけですよ。クロマグロが終わった頃は、台湾船も比較的少なくなります、その時には行きますけど(笑い)。

南の海 日本船ひしめき 投縄2マイル間隔も

クロマグロの時期の操業場所ですか？

(漁場図を指して) ウチら八重山漁協はマグロ船は16隻いますが、大体がこの島の近くで投縄したり、南のこっち(先島北西漁場：②海区)とこっち(宮古・八重山南漁場：③海区)ですよ。そこに行ってもかやっていません。いや、こっち(沖縄本島南漁場：④海区)には殆んど行きません、上の方は遠いし、それに船が相当集まりますから。



主なマグロ漁場図 ①：久米島西漁場、②：先島北西漁場、③：宮古・八重山南漁場、④：沖縄本島南漁場

ホンマグロの時期になると、こっち(④海区)は大変ですよ。沖縄船とか、本土船とかが集まって来て、100隻位ですか？ いや200隻、300隻は並んでいるはずですよ。宮古ソネの下

から、ずっと喜屋武(沖縄本島最南端岬)まで、ずらっと並んで、もうすごいですから。

で、自分達は、こっち(②と③海区)に、行きますが、こっちにも船は相当います。

100隻位？ とんでもない、まだいます。もういろんな所から皆来ますから、宮崎船とか、鹿児島船とか、三重辺りからも来ます。もう時期になると、結構集中的に全部、もうこっち(南西諸島全海域)に、皆集まりますから、もう怖い位に集まります。

普通投縄は4マイル間隔でやりますが、その時は3マイル間隔で、もう船が相当ひしめきあっていたら、2マイルになる時もあります(笑い)。漁場が狭いから、柔軟に対応するわけです。

無線で皆と連絡とって、もう食う場所決まっているんです。だから皆が釣れるように、2マイルに間隔に縮めます。勿論、潮の流れも見ながら、纏れないようにですけど。

でも、やっぱり2マイルがギリギリ限界ですねえ。日本船の場合、マグロ船が数100隻と集まっても、ちゃんとルールを守って操業しますから、問題は起こりません。

各船は縄入れ始めポイントを決めたら、到着順に、等間隔3マイルと決まったら3マイルで、2マイルなら2マイル等間隔で、ズラーと並んでいます。そして6時の投縄開始時間になったら、決めたコースに、一斉に縄を入れていきます。ですから船同士では、日本船同士で、縄が交差するとかのトラブルは殆ど起こりません。台湾船が入ってきたら問題ですけど。



揚縄光景 ①：愈々縄揚げ開始。縄の引っ張り具合を手で確認しながらラインホーラーで縄巻上げる。
②：大物掛かっているか重い、引き寄せて見るとマグロが姿を現した。釣糸を切逃げようと必死に泳ぎ回る。
③：船に引き寄せて、モリで脳天を突く。動きが鈍くなったら、エラもとを鉤竿に掛け、甲板に引き揚げる。
④：釣れたのは4,50kgほどのキハダ。暴れ防止マットに乗せても動き跳ねる。針金で突刺し留めをさす。

台湾船との問題 線引きするしか

台湾船との問題は深刻ですよ。縄が交差するとか、暫定執法線とか、いろいろ問題があります。解決方法ですか？ 両方で話し合っって線引きするしか方法がない気がします。

例えば、ホンマグロはフィリピンの南の方から、台湾近海を通過して北上してきて、南西諸島、東シナ海をぐるっと回って、また南に帰って行く。回遊するわけだから、いわば台湾付近から南西諸島のどこでも釣れるわけです。

実際、日本側は、今は台湾の方に南下してマグロを釣ることはないです。台湾の方が南

から段々上がって来ています。マグロを追っかけて、追っかけて、北上して来てます。

蘇澳の船も、高雄の船も、台湾船は皆、マグロ獲りながら北上してきて、5,6月の頃にはここにやって来るわけです。それが今の問題を引き起こしている原因です。この問題を解決するには、日本側と台湾側でラインを引いてルール作るしか方法がないと思います。

台湾側はここからここまでは入らないで下さい、日本側もこのラインから外へは出て行かないからと。我々の漁業を守るには、きちんとした線引きをするしかないです。台湾と日本の各々の海から中間線、国際的にも認められている50対50の中間線を引いて、お互いにルールを決めて、守って操業する、そうするしかないと思う。両国でラインを決めて引いて、そのライン外側の台湾側でも、内側の日本側でも、マグロは釣れるわけですから。

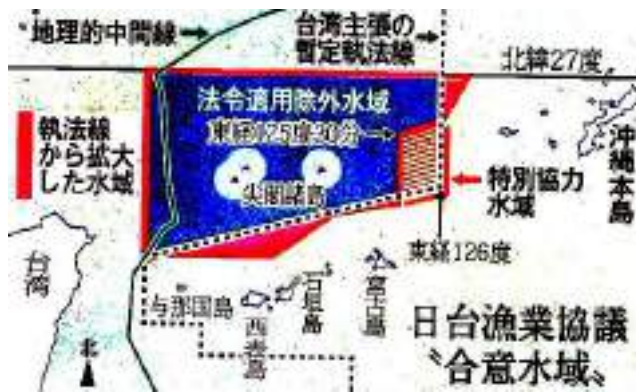
今交渉している日台漁業協定？ あれがそうですねえ、今日本と台湾があれをどうするかと話し合っています。あの話し合いの中で、線引きの問題が取り上げられています。

線引きを取り決めるという考えには大賛成ですが。残念なことは、日本政府は、水産庁は、台湾が勝手に引いた暫定執法線を認める形で譲歩していることです。我々漁民の考えも聞かないで。

日台協定で 暫定線超えて 操業認める 八重山

あれは完全に間違いです。日本政府は、我々漁民の意見も聞かないで、勝手に台湾側に譲歩して、水産庁は自分達の承諾なしに取り決めたわけです。これが日台漁業協議“合意水域”図です。

この久米島西方の「特別協力水域」と八重山北方の「三角水域」がありますねえ。三角水域は尖閣列島のすぐ下側です。どっちもクロマグロが獲れる最高の漁場です。この台湾が勝手に引いた暫定執法線、これを日本政府は認めたわけです。もうこの暫定執法線を日本側が認めたから、日台で決めたから、生きています。



日台漁業協議“合意水域”図：暫定執法線から拡大水域は尖閣諸島下方「三角水域」と久米島西方「特別協力水域」。

です。台湾船はあっちでもう堂々と操業できるわけです。その上、日本政府は、この下に三角水域まで作って、台湾船が操業していいことになっているんです。日台漁業協定で、この三角水域と特別協力水域は、一番魚の獲れる所を台湾側に譲歩しているわけです。もう政府のやることはムチャクチャ、我々沖縄漁民にとって致命的な痛手、将来に悔いを残すことになるはずですよ。台湾船は300から400隻位いますから、台湾全体からこっちに集中して来ますよ。絶対台湾船は太刀打ちできない。ウチらにとって大変な打撃、死活問題ですよ。

僕は最初の頃は、県漁連の日台の会議に出てましたけど、国は自分達漁民の意見も、何

も聞かないで、大本は勝手に決めて、あとはこの運用をどうするかとか、枝葉の問題でし



クロマグロ揚縄光景 ①：縄揚げは時には深夜に及ぶ。夜の海中を釣糸切ろうと逃げ回る。②：モリは見事に命中。脳天に突き刺さり、血しぶきが上がる。③：ウィンチで吊り上げ、数名がかりで甲板に引き揚げる。ずっしりと重い。④：実に見事なクロマグロ。300kgは優に超えるか。疲れも一気に吹き飛ぶ。

よう。もう馬鹿らしくなって出席するのを止めました。だから今話合いがどうなっているか分かんんです（笑い）。

台湾・中国 マグロ高い人気 益々需要高まる

台湾は、マグロ漁では世界で3本指に入りますよ。これは台湾と日本、韓国です。台湾のマグロ延縄は、あれで、もう各地へ、遠出して、いろんな所に行ってますから。

で、以前台湾で調査をされた方から聞きましたが、台湾の港にマグロは1隻当たり2、3本位しか揚がらないそうですが、船の数が桁違いですよ。八重山近くに来る船でも300隻、400隻はいます。それに高雄の船なんか会社組織で、大きい船だと100ト位もあるわけですよ。ですから、物が一気に出揃うわけですよ。以前はホンマグロ時期なると、築地に1日700、800本は台湾から送られてきていた。また7、8年前までは台湾船が釣ったホンマグロは福岡の市場にも入ってきたようです。それが今はもう殆んど来なくなっています。

今、中国もマグロよく食べるというから、中国に送っているか知らんけど、台湾では刺

身食べますよ。相当地元でも消費しているはず。台湾からの観光客こっち(石垣島)に来るでしょう。こっちの刺身屋に刺身買いに来ます(笑い)。もう随分魚ブーム、健康食ブーム、魚がメインですねえ。これは経済の発達だと思います。経済が豊かになって、みんな美味しい物を食べるようになった。日本人が食べるマグロも、台湾でも、中国でも、食べるようになって、もうマグロは人気が高いです。ますます需要が高まっているわけです。

中国人も最近ではマグロをどんどん食べ出していますねえ。怖いですねえ。外国から輸入するよりは、自国で獲りに行くでしょうから。そうなると、中国のマグロ船がこっちに進出して来る可能性は大きいです。中国漁船の今後の動向は怖いです。



台湾はマグロ王国。写真は高雄港に係留のマグロ船。係留だけで90隻はあったという。(「清福丸ブログ」より)。

やがて中国船マグロ船 押しかける 台湾船船子 中国人

今は中国船は来ていません、マグロ船の主流は台湾船です。近年台湾船の乗組員はインドネシア人もいるけど、ほぼ中国人の船員です。ということは、こっちでマグロが釣れることを中国は知っているわけです。怖いのは、台湾船に船員として乗っている中国人の船員達が、漁業技術を覚えて、中国で独立したら、来るはずですよ。彼らがいつまでも台湾船の船員であればよいけど、いずれ独立して自分の船持って来るのは確実です。

大陸棚では、底引き船が相当操業しています。これらもいずれマグロ延縄に転換して、南下して来るかも知れません。それに中国は南方のパラオ、グアムとかで、マグロ延縄をやっています。しかも中国の延縄船は大型船で60トとか、100ト級もあると聞いてます。

海外で操業が厳しくなって、締め出し食えば、今度はこっちに押しかけて来ると思います。もうマグロが獲れると知っていますし、いい漁場ですから、そうなるともう大変です。

中国のマグロ延縄船は相当戦闘の能力が高いです。60ト、100トもあるわけですから。私達の船は10ト未満の16隻、台湾は19ト級の200



中国の遠洋マグロ船が初めて南シナ海へ操業、長さ52メートル、706ト、乗組員31人の大型マグロ船。(「中国新聞網」2012)

隻から 300 隻だが、中国が大船団したてで、“参戦”して来れば、とても太刀打ちはできませんよ。

中国船 27 度以南でも 取り締まりできない

中国船は、こっち、沖縄近海でも操業できます。日本側の領海 12 カリに入らなければ、排他的経済水域でも、マグロ船だろうが、何だろうが、13 カリから仕事できます。日中漁業協定で認めているわけですから、27 度線以南はグレーゾーンで、そうになっています。

だから中国のマグロ船が乗り込んできたら、もうウチらはもう全滅、5 年はもたないです。ほんとは早く日台の前に、中国との漁業協定、日中漁業協定の 27 度以南の小笠原諸島、あれは何かしないといけません。

もうサンゴ船でもそういう状況にあるでしょう。中国の海洋調査船も日本の排他的経済水域で海洋観測やっているのに、ワイヤー垂らして、あれは水深調べて、もしかしたら潜水艦のあれ、地図作っているんじゃないですか？ サンゴ船なんかは、もう宝山ゾネのこの辺りとか、大九ソネとかに、いっぱい群がってすごいです。4,50 隻はいますよ。

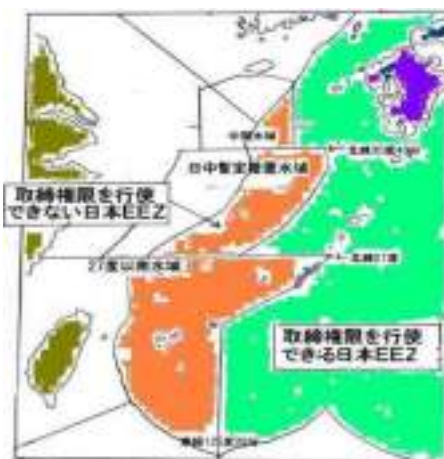
水産庁の取締船は、それを傍で見張っているわけです。領海に入ったら違反だけど、領海外であれば、中国船がサンゴ盗っても取り締まらない。だから、中国サンゴ船は沖縄側の経済水域で、12 カリ線ギリギリで仕事しています。1,2 隻は領海内に入って、水産庁の取締船に逮捕されましたけど、領海外ならサンゴ盗っても取り締まれないわけです。そのあと、この中国船は一部は小笠原に移動したんじゃないか、とにかく小笠原海域に、中国サンゴ船が 200 隻も集まったということで、新聞もテレビは連日大騒ぎですよ。

国会も大騒動して、法律改正して、罰金を高くして、小笠原の場合は、経済水域で操業したも、すぐ逮捕してます。だけど、沖縄の宝山ゾネなんかで、中国船が目茶苦茶にサンゴ採っていて問題にしない。マスコミも注目しないし、ニュースにもならない（笑い）。

だけど、沖縄の私達には大変な問題です。あれ達がサンゴ網引っ張って、魚の棲みかは壊すし、4,50 隻も集まって塊っているから怖いんです。あっちには近寄れなくて、漁行けないです。水産庁にどうにかしてくれと文句言っても、どうすることもできないさあ。今の日中漁業協定が障害になっている、27 度以南は、南西諸島はグレーゾーンになっているから、中国漁船が 27 度以南で操業しても、日本側は取り締まれない。だから、中国船のサンゴ船もこっちに押しかけて来たわけです。

日中漁業協定 白紙に戻せ 死活問題

日中漁業協定は、中国側に有利で、日本側に不利なんです。27 度線以南については、沖縄の漁業を全滅に追いやるものです。何であんな協定結んだのか、



日中漁業協定水域図

常識が疑われる。僕なんかも全く知らなかった。27 線以南の小淵書簡条項、外務省が、俺なんかも、沖縄の漁師は全く分からなかった。この日台のあれがやってからが明るみに出たから。尖閣衝突事件のあれで、あれも全然知らなかった、聞いたら小淵書簡にあるからと、もうとんでもないと、逆に台湾側に手放して、中国に売って、台湾も、中国の国旗付ければ、中国船と見なされるから、そしたら違反じゃないから、立ち入り検査できないですよ。12 刈りの外側なら、自由に操業できるさあ。とにかく中国がマグロ船に切り替えて南下してきたら大変ですよ、あと 5 年はもたんじゃないか、だから早く日台の前に、中国とは何とかしないといけない。あの日中漁業協定を早く白紙に戻さないといかん。これこそほんと沖縄にとって死活問題よ。また台湾は、あとで必ずこれを盾にするからよ、絶対。何で中国は 12 刈り外で仕事できるのに、自分なんかはできないかと。もう白紙に戻せと何回も言っているのに、何言っても、国は僕らの言うことを聞かない。だから全く無駄という感じ、もう分からんですよ。これ考えると僕なんか頭がおかしくなってくる（笑）。

マグロ禁漁期 無意味？ 他国から資源を守ることも考えねば

最後になるけど、国では今クロマグロの禁漁期を決めようとしている、産卵期などですね。でも日本がこうしてマグロ資源を守っても、外国船がやってきて、全部獲っていかれるのでは、守る意味をなしません。今現状そうなっている一本釣漁場があります。沖の曾根(沖の中のソネ、台湾ソネという別称あり、与那国島南東のソネ)というところを禁漁区に指定して、マチ類を保護繁殖させようと頑張ったのに、台湾船が来て魚を釣っていく（笑）。もう沖縄の漁師が我慢して、懸命になって魚を育てている、それなのに外国の漁師がそれを釣っていくわけよ。それでは意味がない。漁業資源を育て増やそうとするなら、他国から資源を守ることも一緒に考えないといけないはずだが。

尻切れになったみたいだが、僕の言いたいことはこれだけです。参考になったかどうか分からんが、これで終わります。（了）



今回の宏徳丸の航海の大きな収穫の 1 つのクロマグロ。全員でピース。(2007)



※「尖閣研究 尖閣諸島海域の漁業に関する調査報告
—沖縄県漁業関係者に対する聞き取り調査— 2014年」(2015年刊)
「2章 宮古島・八重山地区 2-2 八重山漁協」より転載しました。